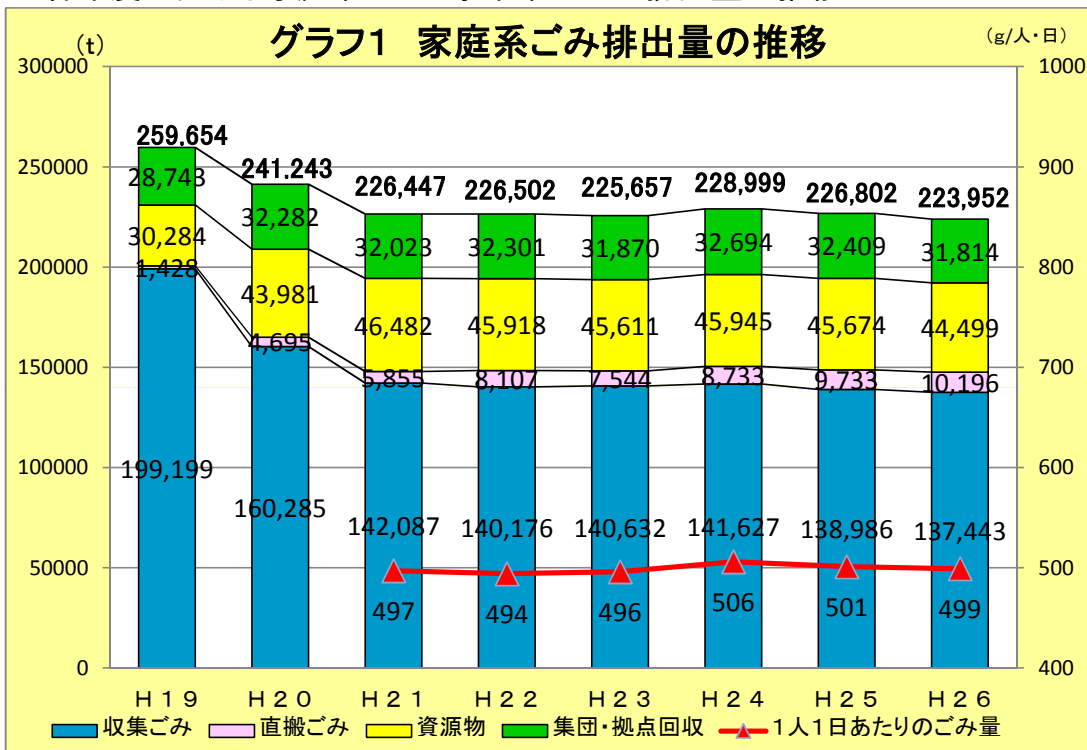
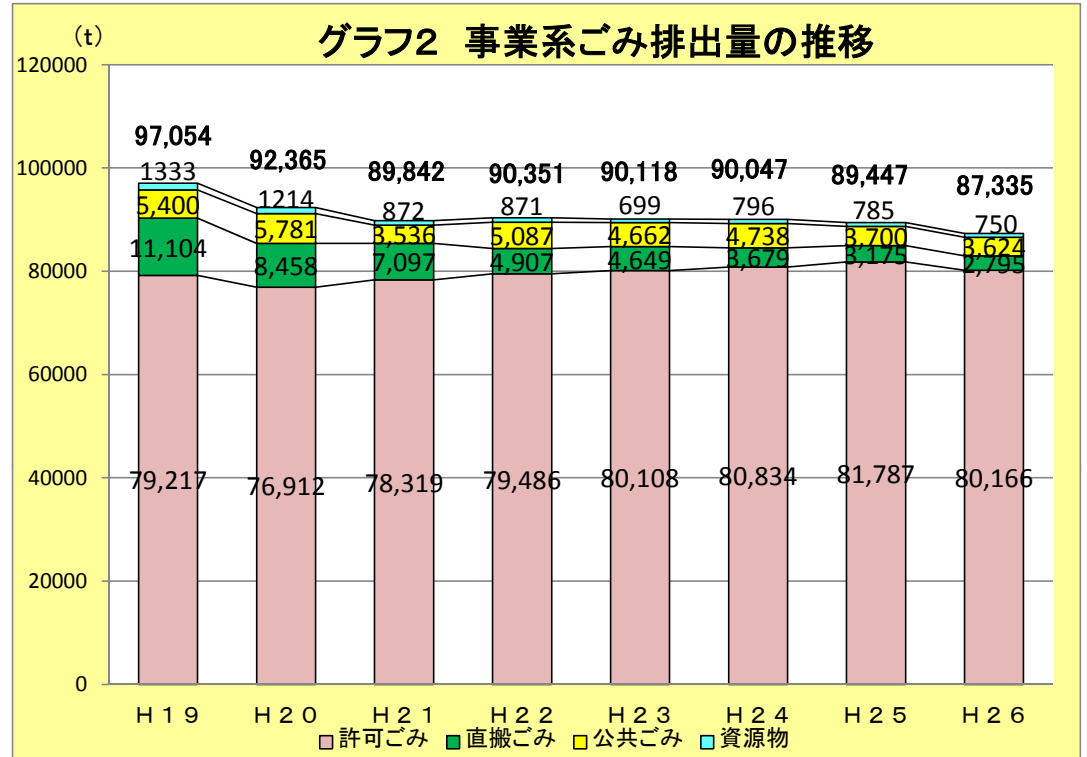


近年のごみ量の推移等について

●各年度における家庭系ごみと事業系ごみの排出量の推移

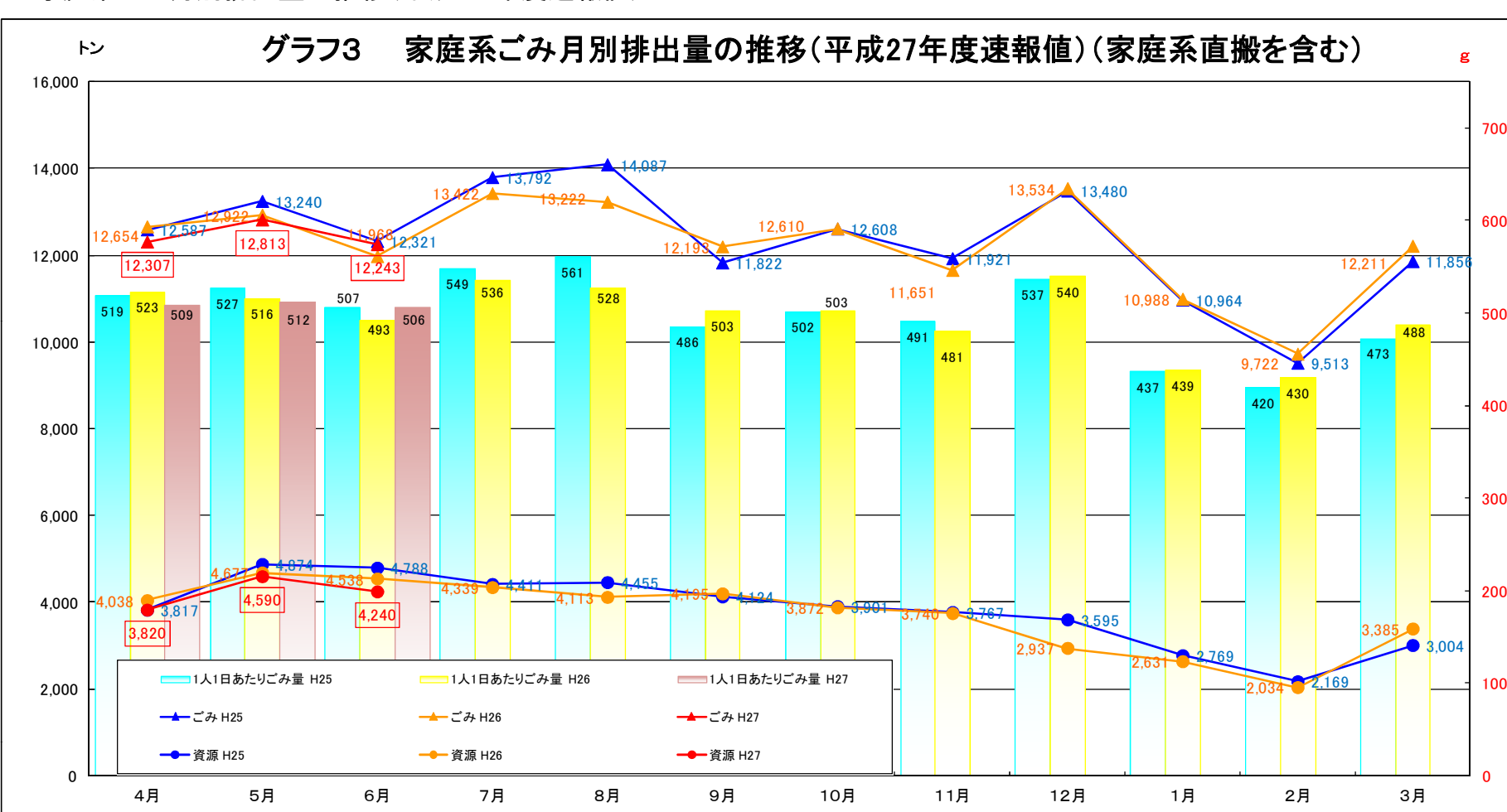


収集ごみ・・・燃やすごみ、燃やさないごみ、普通ごみ、粗大ごみ  
 直搬ごみ・・・家庭系の処理施設への直接搬入ごみ  
 資源物・・・家庭系収集資源物(プラマーク容器包装、ペットボトル、びん、缶、特定5品目、古紙類、枝葉・草)  
 集団・拠点回収・・・集団資源回収量と拠点回収量の合計  
 1人1日あたりのごみ量=(収集ごみ+直搬ごみ(有料))÷人口(人)÷年間日数(日)  
 ※直搬ごみを家庭系と事業系で分けて統計をとるようになったのは新制度開始以降



許可ごみ・・・一般廃棄物収集運搬業の許可業者が排出事業者から委託され搬入したごみ  
 直搬ごみ・・・排出事業者が自ら処理施設へ搬入したごみ  
 公共ごみ・・・側溝汚泥・不法投棄・動物の死体・ボランティア清掃など  
 資源・・・食品残渣(学校給食残渣・事業系食品残渣)の堆肥化分、公共施設から収集される資源物

●家庭系ごみ月別排出量の推移(平成27年度速報値)



●リサイクル率

平成26年度:27.9%(平成25年度:27.2%(人口50万人以上の都市中第2位)、平成24年度:26.9%(同5位))

<p><b>【平成26年度家庭系ごみ量について】</b>                  ○ごみが前年度比で1,543t減(1.1%減)                  内訳                  ・燃やす(普通)ごみ・・・858t減少(0.7%減)                  ・燃やさないごみ・・・278t減少(6.9%減)                  ・粗大ごみ・・・407t減少(11.5%減)                  ※考えられる要因                  ⇒年度前半は消費税増税による影響(買え控え等)による減少</p>	<p>○資源物が前年比で1,175t減少(2.6%減)                  主な内訳                  ・プラマーク容器包装・・・253t減少(3.0%減)                  ・ペットボトル・・・43t減少(3.5%減)                  ・飲食用・化粧品びん・・・147t減少(2.1%減)                  ・古紙類・・・1,192t減少(11.8%減)                  ・枝葉・草・・・571t増加(3.6%増)                  ※考えられる要因                  ⇒プラマーク容器包装・ペットボトルでは容器自体の軽量化                  ⇒古紙類では秋葉区で集団資源回収モデル事業実施による減・・・618t減少(26.0%減)                  ⇒枝葉・草は時期による増減あり                  ・H26.4月の増加率:23.3%                  ・H27.12月の減少率:37.3%                  ・H27.3月の増加率:103.2%</p>	<p><b>【平成26年度事業系ごみ量について】</b>                  ○許可搬入が前年度比で1,621t減少(2.0%減)                  ○直接搬入が前年度比で380t減少(12.0%減)                  ※考えられる要因                  ⇒事業系ガイドラインの普及                  ⇒展開検査の強化による搬入規制の実施</p>
<p><b>【リサイクル率について】</b>                  ○リサイクル率が前年度比で0.7ポイント増加                  ※考えられる要因                  ⇒新田清掃センターのスラグを埋立地の覆土材として利用</p>		